

第1回審議会で頂いたご意見と、第2期総合戦略（案）への反映について

番号	頂いたご意見（要旨）	第2期総合戦略（案）への反映
1	PDCAの中でも“DO”のところを大事にしていく必要がある。	第2回審議会にて、第1期戦略に対して「何をしたか」「何を成し遂げたか」の検証結果を確認していただきます。 また、第2期戦略の策定にあたっては、住民ワークショップからも、“Do”の部分のアイデアをいただきながら、具体的に実施すべきことを整理していくようにしていきます。
2	総合戦略の議論については、「たたき台」を作っていただき、それを提示してもらいながら進めていくようにしたい。	第2回審議会に向けて、第2期戦略の「たたき台」を提示させていただきます。そちらを土台に議論をお願いいたします。
3	「人を呼び込む」というためには、ストーリーを作ってPRしていくことが重要。今は「地震」や「復興」があるものの、益城町のストーリーを描いていく必要がある。	【冒頭（P1～3）】において、町のセールスポイントや狙うべきターゲットを整理させていただきました。 その上で、「特に若い世代や子育て世代の人が、“心豊かな暮らし”を実現できる町」という言葉でストーリーの根幹を表現させていただきました。
4	「事業承継」という新たな視点も必要。震災からの復旧を通して新しくなった事業資産をできるだけ長く使っていくという視点も、他の地域とは異なるが、重要な視点となる。	【政策目標4-基本施策③】において、「新しくなった農業施設を将来的に「誰が」「どのように」活用していくか、という見通しを立てていく」という施策を掲げさせていただきました。
5	県道熊本高森線は、今はまだ歩ける状況ではないが、将来的にはフットパスで歩けると良いと思う。	【政策目標1-基本施策③】において、県道熊本高森線も含めて「『歩きたくなる』歩行空間づくり」という施策を掲げさせていただきました。
6	町の活気・にぎわいというのは「光」と思う。例えば、熊本市内の光電車は町のにぎわいづくりに一役買っているし、「震災後はパチンコ屋が光をずっと灯していて心が落ち着いた」という話も聞く。肥後銀行でもイルミネーションをやりたいと思っている。それを他の民間事業者が真似してもらえれば、にぎやかな街が形づくられると思っている。	中心市街地におけるにぎわいづくりのための事業のアイデアとして、現在策定中の「中心市街地活性化基本計画」にて取り込ませていただきたいと思います。
7	町の将来のためには、「どうすれば若い世代に移住して来てもらえるか」を考える必要がある。 それに向けて「地域愛」を育てていくにあたって、町の歴史や文化を伝えていくことは大事。飯田山の名前にまつわる昔話は「まんが日本昔話」にも出てきて、「こんな話が自分の土地にもあるんだ」と印象に残っている。また、四賢婦人記念館でも「こんなすごい人たちが歴史に埋もれているんだ」という想いを持った。 地域の歴史や文化を学び、地域への誇りが芽生えてくると、地域を良くしていきたいという意欲にもつながっていくと思う。 若い世代に将来を担ってもらえるような取組を積極的にしていただきたい。	【政策目標3-基本施策①】において、「地域と密接につながる教育の推進」という施策を掲げ、その中で、「地域の歴史や人物、自然等の魅力を伝え発見する授業等を通じて、「ふるさと愛」の醸成を図ります」という表現を入れさせていただきました。
8	若い人たちに沢山来てもらうためには、その受け皿となるよう、保育所や一時託児等が重要となる。	【政策目標3-基本施策②】において、待機児童ゼロに向けた取組を整理させていただきました。
9	農業の町でもあり、「食べ物がおいしい」や「水がおいしい」など、子育てをする人にとって良い環境がある。また、市内にも近く、交通アクセスも良い。市内に比べて土地等が安いという声も聞く。そういった、ベッドタウンとしての魅力を発信するというのも大事。	【冒頭（P1～3）】において、町のセールスポイントや狙うべきターゲットを整理させていただきました。 その上で、「特に若い世代や子育て世代の人が、“心豊かな暮らし”を実現できる町」という言葉でストーリーの根幹を表現させていただきました。
10	小学校低学年の授業では飯田山の話を取り上げている。また、地域の先人を知るといことで、益城中学校では志賀鉄太郎さんの授業を入れており、今後、四賢婦人の授業も入れていきたい。 さらに、木山城址や広安校区の遺跡も授業に取り入れながら、「素晴らしいふるさと」を子供たちに教えていきたい。	情報提供いただき、ありがとうございます。 【政策目標3-基本施策①】において、「地域と密接につながる教育の推進」という施策を掲げ、その中で、「地域の歴史や人物、自然等の魅力を伝え発見する授業等を通じて、「ふるさと愛」の醸成を図ります」という表現を入れさせていただきました。

番号	頂いたご意見（要旨）	第2期総合戦略（案）への反映
11	コミュニティスクールを通じて学校が地域にどんどん開かれて行き、学校の中で色々な行事が行われるようになっていく…ということも考えていきたい。全校でコミュニティスクールを立ち上げているが、もっと動いていくためのお金が必要。	【第2期戦略（案）の政策目標3-基本施策①】において、「地域と密接につながる教育の推進」という施策を掲げ、その中で、「地域や保護者が学校運営に関わる「益城版コミュニティスクール」をさらに推進していくことで、学校と地域の連携を深め、地域全体で子供たちの健やかな成長を支えます」という表現を入れさせていただきました。
12	良い教育や良い保育が行われているところには、それらを求めて人が集まってくる。	【政策目標3】の基本的方向において、その旨の表現を入れさせていただきました。
13	福岡市では、山の中の小学校に、校区外の子供が通学できるような制度（海っ子山っ子スクール）があった。子供たちは、山の中で魅力ある小学校に遠くから通っていた。自分の子供に同じ教育を受けさせたい、ということで帰ってくる人もいると思う。子供がいなくなると寂しくなるので、長い目で見て、独特の魅力を打ち出していくことが大事。	【政策目標3-基本施策①】において、「地域と密接につながる教育の推進」という施策を掲げ、その中で、「飯野小学校、津森小学校については、特色ある教育活動を行いつつ、通常の通学区域に関わらず、校区外から児童が通学することができる制度の活用を促していきます」という表現を入れさせていただきました。
14	益城町には、今後民営化していく「空港」という財産がある。震災の話と、空港という施設、さらには崇城大学の授業等を組み合わせながら、空港を観光誘致の一つのインフラとしてもプログラム化していくことも考えらえる。	空港を活用していくためには、空港と町との間の移動のしやすさが重要と考えます。【政策目標1-基本施策②】において、「熊本市や空港に近く、またコンパクトに市街地がまとまっているという地理的なポテンシャルをさらに生かしていくためには、公共交通体系のさらなる充実が必要」という表現を入れさせていただきました。 また、震災の話を中心とした組み合わせという点について、【政策目標2-基本施策②】において、「教育旅行（修学旅行・企業研修）の誘致」という施策を掲げ、その中で、「熊本地震を題材とした防災・減災を学ぶことができるプログラムを開発し、学校の修学旅行や企業の研修旅行を中心に、教育旅行の誘致を図ります」という表現を入れさせていただきました。
15	住む場所を選択するタイミングは、「結婚するとき」、「子供が入学するとき」、「退職のとき」。幼稚園のお友達から話を聞いて、その近くに家を建てるということもあり、幼稚園のつながりは非常に重要。なので、「幼稚園のアピールポイント」を明確に打ち出すべき。「勉強させたい」、「スポーツさせたい」、「遊ばせたい」と親の希望は様々なので、そこに対してしっかりとアピールできれば、そこから定住につながっていくこともあると思う。益城町の幼稚園の良さを知らない人が多いので、幼稚園の特色をしっかりと発信して、遠くからでも「来たい」と思ってもらうくらいになると良いと思う。	【政策目標3-基本施策①】において、「幼稚園教育の特色の磨き上げ・発信」という施策を新規に掲げ、その中で、「本町の幼稚園教育の特色を取りまとめた上で、積極的な情報発信を行っていきます」という表現を入れさせていただきました。
16	魅力ある企業誘致を進めていくことが重要。「人を増やすために企業を呼び、従業員が増える」というのが大事と思う。現在の人口データを、年齢別・業種別にさらに細かく見ていくことで、いろいろ見えると思う。また、「益城町は何をもって企業を呼んでいくのか」ということを考える必要がある。	【政策目標4】の基本的方向として、「本町に魅力を感じられるような「しごと」の場を創出していくことで、特に、若い世代や女性に、「益城町で働いてみたい」「益城町で新規に創業・就農してみたい」と思ってもらいたい」という表現を入れさせていただきました。 また、【政策目標4-基本施策①】において、「土地利用方針に沿った効果的な企業誘致の推進」という施策を掲げ、その中で、「それぞれの土地の特性に合致し、かつ、特に若い世代や女性の雇用機会創出につながる企業誘致を推進していきます」という表現を入れさせていただきました。
17	空港が2023年に今までとは違う方向に生まれ変わっていくので、コンセッション事業者とも議論しながら、空港を活用した活性化を検討していくと良いと思う。また、空港周辺の県の12haの土地に何か誘致できないか、と考えている。SDGsも念頭に置きながら、例えば植物由来のプラスチック代替産業やスポーツ医学・スポーツ医療等を誘致できればと考えている。	情報提供いただき、ありがとうございます。 【政策目標4-基本施策①】において、「土地利用方針に沿った効果的な企業誘致の推進」という施策を掲げ、その中で、「現在策定中の都市計画マスタープランに沿い、空港やインターチェンジ周辺の土地や、市街地部及びその付近で業務用途に適した土地等を活用しながら、それぞれの土地の特性に合致し、かつ、特に若い世代や女性の雇用機会創出につながる企業誘致を推進していきます」という表現を入れさせていただきました。

番号	頂いたご意見（要旨）	第2期総合戦略（案）への反映
18	<p>益城町に医療従事者も高齢化してきているので、益城町の医療の火を消さないためには、若い開業医や医者を誘致することが重要。特に、益城町の病院というのは家族の相談にも乗るような個人に寄り添った病院だが、それが風前の灯火になってしまっている。</p> <p>それを解消するためにも、クリニックセンターと、その周りに医療職、看護職を育成するという場を整備し、10年～20年という計画で人を循環させていくような仕組みというのが大事。</p>	<p>【政策目標4-基本施策②】において、「起業・創業を呼び込む環境づくり」という施策を掲げ、その中で、「専門的な資格が必要な業種（例えば医療・看護等）の開業に関しても、特に若い人が開業しやすい場づくりや人材育成に向けた環境づくり等について、検討を行っていきます」という表現を入れさせていただきました。</p>
19	<p>「サクラマチクマモト」の開業にあわせて公共交通機関を無料にしたところ、予想以上の方が来られた。「交通費を意識しないとどうなるか」という行動が見られたと思う。サブスクリプションによって「運賃を意識させない」という施策は有効と考えられる。</p>	<p>情報提供いただき、ありがとうございます。</p> <p>【政策目標1-基本施策②】において、「公共交通利用の促進」という施策を掲げ、その中で、「サブスクリプション」という言葉は明記していませんが、「周辺自治体や事業者等と連携しながら、公共交通の利便性のさらなる向上も図っていきます」という表現を入れさせていただきました。</p>
20	<p>バス事業者の担い手においても高齢化や人不足が深刻であり、それが原因で路線維持が難しくなっているところもある。</p> <p>こういった状況の中、バスだけで公共交通を見るのではなく、乗り合いタクシーや、さらに将来的には自動運転等も見ながら、「バスと他のモードの組み合わせ」を考えていべきと思う。</p> <p>また、高速バスからのインバウンドの入り込みを考えると、益城インター付近にも拠点が必要。そこでの交流の創出も検討していきたい。</p>	<p>情報提供いただき、ありがとうございます。</p> <p>【政策目標1-基本施策②】において、「新しいまちづくりに即した公共交通体系の再構築」という施策を掲げ、その中で、「公共交通網の整備や新たな公共交通モードの導入等の検討を行います」という表現を入れさせていただきました。</p>
21	<p>増田レポート（2014年）において「消滅可能性都市」という言葉が出されたが、なぜ消滅するかといえば「女性の数が減る」から。女性の働き場所が地域にないために、巨大な雇用がある東京圏に女性が吸収されていき、地域で女性が減少していく、という構造になっている。</p> <p>このように、地域の活性化においては「女性」がポイントであるにも関わらず、そこがあまり意識されていない。今回の総合戦略を考える際には、次世代をどうしていくかということを重要視しながら「子育てを支援していく」ということをしっかりと考えていく必要がある。また、「女性の力を活かしていく」「女性の雇用」も考えていく必要がある。</p> <p>そもそもの地方創生の主旨を考えれば、「女性をいかに惹きつけていくか」という視点を持つことが重要となる。</p>	<p>情報提供いただき、ありがとうございます。</p> <p>【P5「第2期益城町まち・ひと・しごと創生総合戦略」のターゲット】において、「若い世代や女性の視点をより意識した施策を展開していくこととします」と表現し、「女性をいかに惹きつけていくか」を、第2期総合戦略の見直しの根幹に置くこととさせていただきます。</p>